

研究ノート

# 沖縄語における「怒り」の比喩表現 －日本語、英語との比較－

## Figurative Expressions of *Anger* in the Okinawan Language: A Comparison with Japanese and English

松井 真人・町田 星羅\*

MATSUI Mahito and MACHIDA Seira

### 要旨

メタファーやメトニミーなどの比喩表現は、言語使用者のものごとの理解の仕方や捉え方が反映した表現である。したがって比喩表現を研究することは、言語使用者の世界観の一端を明らかにすることにもつながる。そこで本稿では、琉球諸語の一つである沖縄語における「怒り」という感情に関わる比喩表現を取り上げ、それを日本語と英語の「怒り」の比喩表現と比較しながら、この3つの言語の共通点および沖縄語特有の「怒り」の概念化を明らかにした。

キーワード：沖縄語、比喩、メタファー、メトニミー、怒り

### 1. 序論

沖縄語は沖縄本島中南部および、沖縄本島西沖にある慶良間列島、粟国島、渡名喜島、久米島のことばである。沖縄語を含む琉球諸語はSIL Internationalが公表しているEthnologueや、UNESCOが公表しているAtlas of the World's Languages in Dangerによって危機言語に分類されており、すでに親から子への継承が途絶えてしまった言語という評価が与えられている。このような状況下で、国、沖縄県、民間団体が琉球諸語の維持活動を行っているが、そのような活動が話者の増加につながっていないのが現状である(町田・松井2019: 26)。話者の減少という危機的な状況の中で琉球諸語の維持・復興を目指す際には、そのための資料とするために、また言語が消滅することに伴ってなにが失われるのかということを一一般の人々に正しく理解してもらうために、琉球諸語の語彙、表現、文法に反映した沖縄文化特有の概念や世界観を記述することが重要である。

これまで、琉球諸語の音韻、語彙、文法については、数多くの研究がなされてきたが、比喩についての研究はあまり行われておらず、特に本稿のような認知言語学的な比喩研究はほとんど行われていない。認知言語学では、言語の構造にその使用者の認知能力が反映しているという言語観を基にして、意味や文法の研究が行われている。次節で見るように、メタファーやメトニミーなどの比喩表現は、まさに言語使用者の認知能力すなわちものごとの理解の仕方や捉え方が反映した表現である。したがって比喩表現を研究することは、言語使用者の世界観の一端を明らかにすることにもつながる。そこで本稿では、琉球諸語の一つである沖縄語における「怒り」という感情に関わる比喩表現を取り上げ、それをMatsuki (1995) や Kövecses (1987) で分析されている日本語と英語の「怒り」の比喩表現と比較しながら、この3つの言語の共通点および沖縄語特有の「怒り」の概念化を明らかにすることを試みる。なお、本稿の沖縄語のメタファー、メトニミー分析は辞典と文献に基づくものであり、沖縄語話者からの聞き取り調査を含めた今後

\* ハワイ大学ヒロ校大学院博士課程

のさらに詳細な分析のための予備的な分析である。

## 2. 日本語と英語の「怒り」の比喻表現

### 2.1 認知言語学的メタファー論

本稿で比喻を分析する際の理論的枠組みは、Lakoff and Johnson (1980) に端を発する認知言語学におけるメタファー論である。メタファーやメトニミーを含む種々のレトリックの研究は古代ギリシャ時代に始まったが、それ以来、レトリックは口頭弁論や文学における効果的な表現の技法として研究されてきた（佐藤1992: 序章1）。しかし認知言語学では、人間の認知を考慮した新しいメタファー論が展開されており、メタファーは言語表現だけに関わるのではなく、人間の概念体系の多くの部分がメタファーによって構造化されていると見なされている。(1)の例を見てみよう。

#### (1) TIME IS MONEY

You're *wasting* my time.

This gadget will *save* you hours.

How do you *spend* your time these days?

That flat tire *cost* me an hour.

I've *invested* a lot of time in her.

Lakoff and Johnson (1980: 7-8)

スモールキャピタルで書かれているTIME IS MONEYの部分は、英語文化では、時間の概念が金銭の概念に対応づけられて理解されていることを示している。このような、ある概念を他の概念に対応つけて類比的に理解するという認知のあり方を概念メタファー (conceptual metaphor) あるいは概念写像 (conceptual mapping) という (Lakoff 1993: 209)。理解の対象となる概念は目標領域 (target domain)、目標領域を理解するために用いられる概念は起点領域 (source domain) と呼ばれている。(1)の例ではTIMEが目標領域、MONEYが起点領域である。これら2つの概念が結びつけられているのは、両者の間に「限りある貴重な資源」というような類似性が感じられるからである。その下に挙げられている英文は、TIME IS MONEYという概念メタファーが存在することによって生じた言語表現である。これらの言語表現では、イタリックの部分が表示するように、本来は金銭の特定の側面を語るための表現を用いて、時間の特定の側面が語られている。このような言語表現の存在が、時間の概念が金銭の概念に基づいて理解されていることの証拠となる。このような、概念メタファーから派生する言語表現は、メタファー表現 (metaphorical expression) と呼ばれている (Lakoff 1993: 209)。

メトニミーは伝統的に隣接性に基づく比喻と定義されてきた。認知言語学ではメトニミーも人間の認知が反映した表現であると考えられている。私たちはある対象Aに意識を向けるときに、それと空間的、時間的、特性的に近い関係にあり、Aよりも認知的な際立ちが高い対象Bにいったん注意を向けてからAに意識を向けるということがある。このような認知が反映した表現がメトニミーである (Langacker 1993、瀬戸1997)。例えば、The kettle is boiling 「やかんが沸いている」という表現においてkettleはやかんそのものではなく、やかんの中で沸騰している湯を指している。これは容器が内容物を指す空間的隣接性に基づくメトニミーの一種である。なぜこのような表現が用いられるのかといえば、やかんの中にあって見えない湯よりも、シューシューと音を立てているやかんのほうが私たちにとって際立つ存在であるため、私たちはいったん際立ちの高いやかんそのものに注意を向け、それを經由して、やかんの中の湯へと意識を向ける。このようなものごとの捉え方が、メトニミーの表現に反映しているのである。

### 2.2 日本語とアメリカ英語に共通する「怒り」のメタファー、メトニミー

本節と次節では、Matsuki (1995) による日本語における「怒り」の分析の概要を示す。MatsukiはKövecses

(1987) によるアメリカ英語の *anger* の分析との比較に基づき、*anger* と同じように日本語の「怒り」も数多くのメタファーとメトニミーによって概念化され、構造が与えられていることを示している。つまりここでいうメタファーは概念メタファーである。さらに Matsuki は日本語の「怒り」の概念を分析するにあたっては、メタファー、メトニミーだけでなく、この概念が用いられる社会文化的なコンテクストを考慮する必要があることを示している。

Matsuki は、Kövecses (1987) が挙げている *anger* のメタファーとメトニミーのうち、日本語と共通するものとして(2)~(18)のメタファーとメトニミーを挙げている。スモールキャピタルで表記されている概念メタファー、メトニミーの下にそれらから派生する日英語の言語表現を挙げておく<sup>1</sup>。

#### メタファー

(2) THE BODY IS A CONTAINER FOR THE EMOTIONS 「体は感情を入れる容器」

怒りは激しい波のように彼の全身に拡がって行った。怒りで胸が一杯になってきた。(『感情表現新辞典』より引用)

He was filled with anger. She couldn't *contain* her joy.

(3) ANGER IS THE HEAT OF A FLUID IN A CONTAINER 「怒りは容器の中の流体の熱」

はらわたが煮えくり返る。怒りが体の中でたぎる。

You make my *blood boil*. *Simmer* down!

(4) INTENSE ANGER PRODUCES STEAM 「激しい怒りは蒸気を発する」

頭から湯気が立つ。

She got *all steamed up*. Billy's just *blowing off steam*.

(5) INTENSE ANGER PRODUCES PRESSURE ON THE CONTAINER 「激しい怒りは容器に圧力をかける」

怒りの気持ちを抑えきれない。頭に血が上る。

He was *bursting with anger*. I could barely *contain* my rage.

(6) WHEN ANGER BECOMES TOO INTENSE, THE PERSON EXPLODES 「怒りが極度に激しくなると、人は爆発する」

母はとうとう爆発した。

When I told him, he just *exploded*. She *blew up* at me.

(7) WHEN A PERSON EXPLODES, WHAT WAS INSIDE THEM COMES OUT 「人が爆発すると、中にあったものが外へ出る」

怒りが爆発する。怒りが吹き上げる。

His anger finally *came out*. Smoke was *pouring out of his ears*.

(8) ANGER IS FIRE 「怒りは火」

怒りの火を消す。怒りが燃え出す。

Those are *inflammatory* remarks. She was *doing a slow burn*.

(9) ANGER IS INSANITY 「怒りは狂気」

怒りで我を忘れる。怒り狂う。

I just touched him, and he *went crazy*. You're *driving me nuts!*

(10) ANGER IS AN OPPONENT (IN A STRUGGLE) 「怒りは(戦いにおける)敵」

込み上げてくる怒りと戦う。

I'm *struggling* with my anger. He was *battling* his anger.

<sup>1</sup> 本稿における概念メタファー、メトニミーの日本語訳は、本稿の筆者によるものである。また、日本語の言語表現は Masuki (1995) のローマ字表記の例文を本稿の筆者が日本語表記にしたものであり、英語の言語表現は Kövecses (1987) からのものである。

- (11) ANGER IS A DANGEROUS ANIMAL 「怒りは危険な動物」

凄まじい怒りが眉のあたりに這う。

He has a *ferocious* temper. He has a *fierce* temper.

- (12) ANGRY BEHAVIOR IS AGGRESSIVE ANIMAL BEHAVIOR 「怒りによる行動は攻撃的な動物の行動」

怒りで目をぎらぎらさせる。

He was *bristling* with anger. That *got my hackles up*.

- (13) ANGER IS BURDEN 「怒りは重荷」

怒ったら気持ちが軽くなった。

Unburdening himself of his anger gave him a sense of *relief*. After I let out my anger, I felt a sense of *release*.

メトニミー

- (14) INSANE BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「正気でない行動が怒りを表す」

横っ面を張り倒してやった。

When my mother finds out, she'll *have a fit*. When the ump threw him out of the game, Billy started *foaming at the mouth*.

- (15) VIOLENT FRUSTRATED BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「乱暴ないらいらした行動が怒りを表す」

地団太を踏む。戸をぴしゃりと閉めた。

He's *tearing his hair out!* If one more thing goes wrong, I'll start *banging my head against the wall*.

- (16) AGGRESSIVE VERBAL BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「攻撃的な言語行動が怒りを表す」

そんなにがみがみ言わないでよ。

She gave him *tongue-lashing*. I really *chewed him out good!*

- (17) AGGRESSIVE VISUAL BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「攻撃的な視覚行動が怒りを表す」

母は私をじっとにらんだ。

She was *looking daggers* at me. He *gave me a dirty look*.

- (18) THE PHYSIOLOGICAL EFFECTS OF AN EMOTION STAND FOR THE EMOTION 「感情の生理的影響がその感情を表す」

BODY HEAT 「体の熱」

胸が熱くなるほどの怒りを覚える。

Don't get *hot under the collar*. Billy's a *hothead*.

INTERNAL PRESSURE 「体内の圧力」

怒りが頂点にまで達する。ふくれる。

Don't get a *hernia!* When I found out, I almost *burst a blood vessel*.

REDNESS IN FACE AND NECK 「顔と首の赤み」

顔を真っ赤にして怒る。真っ赤になって怒る。

She was *scarlet with rage*. He got *red with anger*.

AGITATION 「震え」

怒りで震える。声が怒りで震えるのを抑えきれない。

She was *shaking with anger*. I was *hopping mad*.

IMPEDED PERCEPTION 「妨げられた知覚」

怒りで前後の見境がつかない。

She was *blind with rage*. I was beginning to *see red*.

### 2.3 アメリカ英語と共通しない日本語特有の「怒り」のメタファー

本節では、Matsuki (1995) が挙げている日本語特有の「怒り」のメタファーを見ていく。日本語で「怒り」に限らず様々な感情の概念に関係しているのは、「腹」の概念である。「腹」の原義は英語のbellyに相当する身体部位に関わる意味である。この意味を基本として、(19)～(22)のような概念メタファーによって意味が拡張している。

(19) HARA IS THE CONTAINER OF THE EMOTIONS 「腹は感情の容器」

腹の中でひどく怒る 腹にすえかねる 気持ちはわかるけれど腹に納めてください

(20) HARA IS THE WOMB 「腹は子宮」

腹違いの兄弟 腹を痛めた子供

(21) HARA IS THE CONTAINER OF REAL INTENTION AND EMOTION 「腹は偽りのない意図や感情を入れる容器」、  
HARA IS REAL INTENTION AND EMOTION 「腹は偽りのない意図や感情」

腹が黒い 腹を探る 腹を見抜く 腹を読む 腹を割る 口と腹が反対だ 腹に一物ある 腹を合わせる

(22) HARA IS COURAGE AND NERVES 「腹は勇気と度胸」

腹を決める 腹が据わる 腹ができている 太っ腹の人

日本文化において「腹」の中身は「本音」と呼ばれている。人は「本音」を隠し、「建前」を表に出すことができる。日本語の「怒り」のメタファー、「怒り」のシナリオを理解するためには「腹」、「本音」、「建て前」という概念が機能している日本特有の文化的コンテクストを考慮する必要がある<sup>2</sup>。

日本語では人が不愉快な思いをして怒ることを、「腹が立つ」と表現する。したがって日本語の「怒り」の概念メタファーの中で、もっとも基本的なものは(23)と(24)のメタファーである。

(23) HARA IS ANGER THAT RISES 「腹は上昇する怒り」

(24) HARA CAN RISE 「腹は上昇しうる」

これらの概念メタファーと日本文化における「怒り」に関するシナリオ的知識から、数多くの「怒り」のメタファー表現が生まれる。Kövecses (1987) は以下のようなアメリカ英語における「怒り」のシナリオを挙げているが、Matsuki (1995) によると、このシナリオは日本語の「怒り」にも適用できるものの、日本語では段階3がアメリカ英語よりも複雑になっているという。

段階1：不愉快な出来事 (Offending event)

段階2：怒り (Anger)

段階3：抑制する試み (Attempt at control)

段階4：抑制の消失 (Loss of control)

段階5：報復行為 (Act of retribution)

日本語では人が不愉快な思い（段階1）をして怒る（段階2）ことを、「腹が立つ」と表現する。そしてその「怒り」を抑制しようとする際には（段階3）、(25)のようにそれを「腹」の中に止めておこうとする。

<sup>2</sup> ここで言うシナリオとは、時間的次元を含み、いくつかの段階からなる出来事に関するモデル（知識）のことである（Kövecses 1987: 28）。

(25) 腹に納めておく。腹にしまっておく。

そして(26)のように、怒りを抑制できなければ(段階4)、報復行為の段階に至る(段階5)。

(26) 腹に据えかねる。あんまり腹が立ったので本を投げつけた。

日本語では「建前」を示すために「怒り」を抑制する必要があるにもかかわらず、ますます「怒り」が強くなると、(27)のように、その葛藤が容器としての「腹」から離れて「胸」に移動していく。「胸」は「腹」からあふれ出した「怒り」を入れる容器である。

(27) 腹立たしさに胸を締め付けられる。胸がむかつく。

最終的には(28)のように、人がまさに抑制を失おうとする時に、増大した怒りは「頭」に到達する。

(28) とうとう頭に来た。

「怒り」が「腹」あるいは「胸」にある時点では、人はその「怒り」を抑制可能であるが、「怒り」が「頭」に到達すると理性的な思考を失う。この例文の「とうとう」という副詞は、怒りが「腹」と「胸」を通過して上昇し、最終的に「頭」に到達することを示している。

以上がMatsuki (1995) が提示している、日本語の「怒り」の典型的なシナリオである。Kövecses (1987) が示している英語のシナリオの段階3が「腹」、「胸」、「頭」という3つの段階に下位分類されており、これによって英語とは異なる「怒り」のメタファーが生じている。

上で見たのは「怒り」に関する日本語の典型的なシナリオ的知識であるが、Matsuki (1995) は非典型的なシナリオも存在することを指摘している。例えば、他者による不愉快な行為の直後に怒った時、「腹が立つ」ことなく、その怒りが直接「頭」に到達することがある。

(29) 頭にかちんと来た。

(29)の「かちん」は、「怒り」が「腹」から一瞬で「頭」に上昇し、人を不愉快にする外的原因とそこで衝突したことを示している。

### 3. 沖縄語の「怒り」の比喩表現

本節ではまず沖縄語の「怒り」に関わる表現について国立国語研究所が編集した『沖縄語辞典』(第9刷電子版)を基に整理し、その後、それらの中からメタファー、メトニミー表現を抽出し、前節で見た日本語と英語の表現と比較する。そして、それらに共通する表現や沖縄語独自の表現について明らかにする。

まず、『沖縄語辞典』から「怒」の文字を抽出し、「怒り」に関連する例文を見出し語と併せて整理する。この辞典の見出し語はローマ字による音韻表記であるが、沖縄語特有の発音についてはそれが分かるよう独自の表記法を採用している。本稿では分かりやすさを重視して、音韻表記の隣に〈 〉でこれらの片仮名表記を示す。また、考察の際は〈 〉内の片仮名表記を採用する。この調査の結果は、(30)~(43)のとおりである。

(30) *cimu* 〈チム〉(名)

① 肝。肝臓。食物としての、豚などの肝臓。

- ② 心。心情。情。kukuru 〈心〉 よりもはるかに多く使う。  
 ～noojuN. 〈チム ノーユン〉 機嫌が直る。怒りがおさまる。
- (31) huQkwi=juN 〈フククイユン〉 (自)  
 ふくれる。腫れる。皮膚が腫れ上がる。また、怒ってふくれる。  
 çira ～. 〈ツイラ フククイユン〉 怒って顔がふくれる。
- (32) hwiNci 〈フィンチ〉  
 急に気が変わって反抗的になること。人・馬などが、急に不機嫌になること。  
 ～sjun. 〈フィンチ シュン〉 急に気が変わって怒り出す。
- (33) ?irumijjaQsaN 〈イルミーヤッサン〉 (形)  
 (喜怒哀楽の情が) 顔色に現われやすい。現金である。
- (34) ?izi 〈イジ〉 (名)  
 ① 勇気。意地。意気地。元気。  
 ② 怒り。怒気。  
 ?aree ～ ?Nzitoon. 〈アレー イジ ンジトーン〉 彼は怒っている。～nu šiiraraN. 〈イジヌ スイーララン〉  
 怒りを制しきれない。腹にすえかねる。～nu ?Nziraa tii hwiki, tiinu ?Nziraa～hwiki. 〈イジヌ ンジラー テ  
 イー フィキ、ティーヌ ンジラーイジフィキ〉 腹が立っても手(暴力)を出すな。手が出そうになっ  
 たら自分の怒りを静めよ。
- (35) kuhwahwizi 〈クファフイジ〉 (名)  
 つっけんどんな返事。怒りをおびた返事。
- (36) kuNzoo 〈クンジョー〉 (名)  
 悪意。意地悪。根性が悪いこと。立腹しやすい根性。  
 ～?NzijuN. 〈クンジョー ンジユン〉 怒る。立腹する。
- (37) kuNzoo?abii 〈クンジョーアビー〉 (名)  
 怒声。怒ってどなる声。
- (38) kusami=cuN 〈クサミチュン〉 (自)  
 怒る。憤慨する。
- (39) mii 〈ミー〉 (名)  
 ① 目。  
 ～mugeejuN. 〈ミー ムゲーユン〉 見ていてむかむかと腹が立つ。～nu moojuN. 〈ミーヌ モーユン〉 見て  
 いて腹が立つ。～N tuza najuN. 〈ミーヌ トウジャ ナユン〉 目に角立てて怒る。  
 ② 穴。貫通した穴を多くいう。  
 ③ 欠点。欠陥。また、会計上の欠損。また、手落ち。  
 ④ 刻み目。目盛り。
- (40) nii 〈ニー〉 (名)  
 ① 根。草木の根。  
 ② 病根。また、はれものの堅くなっている部分。  
 ③ 怒り・恨みなどの心の底に残っているもの。  
 ～muQcooN. 〈ニー ムツチョーン〉 根にもっている。
- (41) tuga=juN 〈トゥガユン〉 (自)  
 とがる。物の先端が鋭く細くなる。  
 kuci ～. 〈クチ トウガユン〉 口がとがる。怒った時、不平がある時などのさま。tugarasjuN. 〈トゥガラ  
 シュン〉 とがらせる。

(42) 'wata (ワタ) (名)

① 腹。

～ mugeejuN. 〈ワタ ムゲーユン〉 腹がにえくりかえる。非常に立腹する。

② はらわた。腸。動物などのそれをいう。'watamiimuN 〈ワタミームン〉 ともいう。

(43) 'wazi=juN 〈ワジユン〉 (自)

① 沸く。沸騰する。

② 腹を立てる。憤慨する。'waziwazii sjooN. 〈ワジワジー ショーン〉 まさに怒りが発せんとしている。

以上14の見出し語において、「怒」を含む例文が確認できた。次節では、これらの表現の中から、第2節で整理した日本語と英語のメタファー、メトニミーと共通する表現を示す。さらに日本語との比較から沖縄語特有の「怒り」のメタファー、メトニミーについて考察する。

#### 4. 沖縄語と英語、日本語との比較

##### 4.1 沖縄語、英語、日本語に共通する「怒り」のメタファー、メトニミー

本節では、ここまでに示した沖縄語、日本語、英語の比喩表現に基づき、これら3つの言語に共通する「怒り」の概念メタファー、メトニミー ((44)～(47)) を挙げる。概念メタファーから派生する沖縄語のメタファー表現について、必要と思われるものは〔 〕に直訳を示した。

メタファー

(44) THE BODY IS A CONTAINER FOR THE EMOTIONS 「体は感情を入れる容器」

アレーイジンジトーン〔彼は意地が出ている〕 彼は怒っている。

イジヌ ンジラー ティー フィキ、ティヌ ンジラーイジフィキ〔怒りが出そうになったら手を引け、手が出そうになったら怒りを引け〕 腹が立っても手(暴力)を出すな。手が出そうになったら自分の怒りを静めよ。

クンジョー ンジユン〔根性が出る〕 怒る。立腹する。

チム ノーユン〔心が直る〕 機嫌が直る。怒りがおさまる。

ミー ムゲーユン〔目が沸騰する、煮立つ〕 見ていてむかむかと腹が立つ。

ミーヌ モーユン〔目が踊る〕 見ていて腹が立つ。

ワタ ムゲーユン〔腹が沸騰する、煮立つ〕 腹がにえくりかえる。非常に立腹する。

ワタクジユン〔腹をくじる〕 故意に、人を怒らせるようなことを言う。

この他に中本(1983:93)には「チムワジワジー」(心から怒るさま)が挙げられている。以上の表現では怒りに関して「ンジユン」〔出る〕という動詞が用いられていたり、チム〔肝〕、ワタ〔腹〕、ミー〔目〕などの身体部位が怒りや怒りのありかを表していたりする。さらに、日英語と同じように、沖縄語にも(45)の概念メタファーが存在する。

(45) ANGER IS THE HEAT OF A FLUID IN A CONTAINER 「怒りは容器の中の流体の熱」

ミー ムゲーユン〔目が沸騰する、煮立つ〕 見ていてむかむかと腹が立つ。

ワタ ムゲーユン〔腹が沸騰する、煮立つ〕 腹がにえくりかえる。非常に立腹する。

ワジユン〔沸く、沸騰する〕 腹を立てる。憤慨する。

メトニミー

(46) AGGRESSIVE VISUAL BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「攻撃的な視覚行動が怒りを表す」

ミーントウジャナユン〔目がもり（鋳）になる〕目に角立てて怒る。

- (47) THE PHYSIOLOGICAL EFFECTS OF AN EMOTION STANDS FOR ANGER 「感情の生理的影響がその感情を表す」  
 ツイラフックイユン 怒って顔がふくれる。  
 クチトウガユン 口がとがる。怒った時、不平がある時などのさま。  
 イルミーヤッサン（喜怒哀楽の情が）顔色に表れやすい。

以上のように、日本語、英語と共通する概念メタファーとして沖縄語にも THE BODY IS A CONTAINER FOR THE EMOTIONS 「体は感情を入れる容器」、ANGER IS THE HEAT OF A FLUID IN A CONTAINER 「怒りは容器の中の流体の熱」があり、メトニミーとしては、AGGRESSIVE VISUAL BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「攻撃的な視覚行動が怒りを表す」、THE PHYSIOLOGICAL EFFECTS OF AN EMOTION STANDS FOR ANGER 「感情の生理的影響がその感情を表す」があることが明らかになった。しかし表現を詳しく分析すると、概念メタファーとしては共通していても、メタファー表現としては多様な表現が確認できる。例えば沖縄語では「怒り」は勇気や意地を意味する「イジ」、悪意や意地悪を意味する「クンジョー」、心や心情を意味する「チム」で表されることがある。また「怒り」は「ンジトーン」〔出ている〕、「ノーユン」〔直る〕といった表現とともに使われている。さらに、「目」を使った「ミー ムゲーユン」〔目が沸騰する、煮立つ〕、「ミーヌモユン」〔目が踊る〕という表現は、沖縄語特有の表現である。

#### 4.2 日本語の「怒り」のメタファーとの比較

日本語の「怒り」のメタファーについて、2.3節で怒りが「腹」と「胸」を通過して上昇し、最終的に「頭」に到達することを見た。では沖縄語の場合どうか。『沖縄語辞典』の`wata「ワタ」の項目と中本（1983）には(48)～(51)の例文が挙げられている。

- (48) `wata mugeejuN. 〈ワタ ムゲーユン〉腹がにえくりかえる。非常に立腹する。  
 (49) diQpuku 〈ディップク〉立腹。腹を立てること。riQpuku 〈リップク〉ともいう。  
 (50) haradaci 〈ハラダチ〉腹を立てること。立腹。 『沖縄語辞典』  
 (51) ワタクワークワー 腹の底から怒り出す形容 中本（1983: 83）

以上の表現から、沖縄語には日本語と同じように HARA IS THE CONTAINER OF THE EMOTIONS 「腹は感情の容器」、ANGER IS THE HEAT OF A FLUID IN A CONTAINER 「怒りは容器の中の流体の熱」、HARA IS ANGER THAT RISES 「腹は上昇する怒り」、HARA CAN RISE 「腹は上昇しうる」という怒りに関する概念メタファーが存在することがわかる。

次に「胸」を表す「ンニ」の表現を確認する。

- (52) `Nni 〈ンニ〉(名)

胸。

～ dakumikasjuN. 〈ンニダクミカシユン〉胸をときめかす。

～ `jacuN. 〈ンニヤチュン〉〈胸を焼く〉焦心苦慮する。危険に会った時や他人の危険を見た時などという。

`NnihwizurusaN 〈ンニフィジュルサン〉はっとする。肝を冷やす。

`Nnitaara `warijuN 〈ンニターラ ワリユン〉〔胸の俵を割る〕心配で、胸がつぶれる。

`Nniziira 〈ンニジエラ〉〈胸の災難、苦しみ、病気〉心労。精神的な苦労。心を痛めること。

『沖縄語辞典』

「ンニ」にも感情を表す表現は見られるが、日本語の「胸」のような「怒り」を表す表現は見られない。最後に「頭」を表す「ツイブル」について確認する。

(53) çiburu 〈ツイブル〉(名)

① 頭。つぶり。

～nu 'januN. 〈ツイブルヌ ヤヌン〉 頭が痛い。～nu ?Nzukiwadu zuuN ?Nzucuru. 〈ツイブルヌ ンジュキワドウ ジューン ンジュチュル〉 (諺) 頭(かしら)が動いて始めて尾(手下)も動く。

② ふくべ。ひょうたん。実は若いうちは食用にし、熟したのちは中をくり抜いて容器とする。また、その容器。形が頭に似ているのでいう。杓子型のものをいい、ひょうたん型に中央がくぼんだ形のはhjootaNçiburu 〈ヒョータンツイブル〉という。

『沖縄語辞典』

以上のように、「ツイブル」については「怒り」だけでなく感情を表す表現も見られない。したがって、沖縄語には怒りが「腹」から「胸」へと上昇し、最終的に「頭」に到達するというシナリオは存在しないと考えられる。

#### 4.3 沖縄語特有の「怒り」の表現とメタファー

最後に、英語や日本語には見られない沖縄語特有のメタファーを挙げる。沖縄語には心や心情を表す「チム」(肝)を用いた怒りの表現が多い。中本(1983: 81-83)によると、(54)のような表現がある。

(54) チムノースン(肝直す) チムトゥンに近く、怒ったり、悲しんだりした心を元へ直す意。

チムヌビ(肝延べ) 心をゆったりとすることで、些細なことで立腹せず、寛容な心をもっていること。

チムサワジ(肝騒ぎ) 不安や心配事や怒りで、心が騒ぐこと。

チムサバーチ(肝騒ぎ) チムサワジとほとんど同じ意。

チムフトゥフトゥー フトゥフトゥは寒さなどでふるえるさまであるが、チムフトゥフトゥーになると、怒りや恐怖のために心がふるえるさまをいう。スン(する)がついたチムフトゥフトゥースンは、そのような状態になっていることを表す。

チムワジワジー 心から怒るさまを表す。

以上の表現から、沖縄語には、(55)～(57)の概念メタファーが存在すると考えられる。

(55) ANGER IS CHIMU THAT RISES 「怒りは上昇するチム」

(56) ANGER IS THE DISTURBANCE OF CHIMU 「怒りはチムが騒ぐこと」

(57) ANGER IS THE TREMBLING OF CHIMU 「怒りはチムが震えること」

また、(58)～(60)のように、勇気や意地を表す「イジ」、悪意や意地悪を表す「クンジョー」、堅さを表す「クファ」が「怒り」を表すのも沖縄語特有である。

(58) イジ ① 勇気。意地。意気地。元気。② 怒り。怒気。

アレー イジンジトーン 彼は怒っている。

イジヌ スイーララン 怒りを制しきれない。腹にすえかねる。

(59) クンジョー 悪意。意地悪。根性が悪いこと。立腹しやすい根性。

クンジョー ンジユン 怒る。立腹する。

クンジョーアビー 怒声。怒ってどなる声。

(60) クファフィジ [堅い返事] つっけんどんな返事。怒りをおびた返事

『沖縄語辞典』によると、「堅い」を意味する「クファサン」(kuhwasan)には「堅い」のほか「仲が悪い、不仲である」という意味がある。?anu miituNdaa ~. 〈アヌ ミートウンダークファサン〉は、「あの夫婦は仲が悪い」という意である。以上の例から、沖縄語には(61)~(63)の概念メタファーがあると考えられる。

(61) ANGER IS COURAGE 「怒りは勇気」

(62) ANGER IS MALICE 「怒りは悪意」

(63) ANGER IS HARDNESS 「怒りは堅さ」

## 5. 結論

最後にここまでの議論をまとめる。まず、沖縄語と日本語、英語に共通する「怒り」に関わる概念メタファーとメトニミーは(64)である。

(64) THE BODY IS A CONTAINER FOR THE EMOTIONS 「体は感情を入れる容器」

ANGER IS THE HEAT OF A FLUID IN A CONTAINER 「怒りは容器の中の流体の熱」

AGGRESSIVE VISUAL BEHAVIOR STANDS FOR ANGER 「攻撃的な視覚行動が怒りを表す」

THE PHYSIOLOGICAL EFFECTS OF AN EMOTION STANDS FOR ANGER 「感情の生理的影響がその感情を表す」

次に、沖縄語と日本語に共通する「怒り」の概念メタファーは(65)であった。

(65) HARA IS THE CONTAINER OF THE EMOTIONS 「腹は感情の容器」

HARA IS ANGER THAT RISES 「腹は上昇する怒り」

HARA CAN RISE 「腹は上昇しうる」

最後に、沖縄語特有の「怒り」の概念メタファーは(66)であった。

(66) ANGER IS CHIMU THAT RISES 「怒りは上昇するチム」

ANGER IS THE DISTURBANCE OF CHIMU 「怒りはチムが騒ぐこと」

ANGER IS THE TREMBLING OF CHIMU 「怒りはチムが震えること」

ANGER IS COURAGE 「怒りは勇気」

ANGER IS MALICE 「怒りは悪意」

ANGER IS HARDNESS 「怒りは堅さ」

以上の「怒り」の概念化の中で、人間の「身体」あるいは「腹」を容器と見なして、「怒り」をその中で沸騰する熱い流体に見立てるメタファーは、沖縄語、日本語、英語において、もっとも一般的な「怒り」のメタファーであると思われる。その中で、「目」を「怒り」の容器に見立てるのは、沖縄語特有である。日本語と沖縄語は「腹」(沖縄語ではワタあるいはハラ)を「怒り」の容器に見立てる点で共通している。さらに、「腹」に存在する「怒り」が上昇するという捉え方も両言語に共通している。しかし、「腹」から上昇した「怒り」が日本語では「胸」と「頭」に向かうという捉え方があるが、沖縄語にはそのような捉え方は見られない。一方、沖縄語で重要なのは「チム」である。「チム」は元々「肝、肝臓」を表す言葉だが、「心、心情」に意味拡張しており、『沖縄語辞典』によればこの意味では「ククル」よりも多く使われ

る。そして「チム」が上昇したり騒いだり震えたりすることで怒りを表す。

以上のように沖縄語、日本語、英語において、「怒り」という感情はメタファーおよびメトニミーによって理解されている。このことは、これら3つの言語以外の言語でも同様であろう。そして本稿で示したとおり、「怒り」の捉え方は、言語間で共通のものもあるが、大きく異なるものもある。

外間(2000: 17)によると、同系統の言語である日本語と沖縄語を含む琉球諸語が、その祖語から分かれたのは、言語年代学的測定数値やその他の言語学的諸現象から考えて、2、3世紀ごろから6、7世紀ごろである。その後琉球諸語は、日本語との接触によりある程度の影響を受けつつも、数百年にわたって独自の発展を遂げてきた。その間に、両言語のメタファーやメトニミーも独自の発達を遂げたと考えられる。メタファーやメトニミーは、まさに言語使用者の世界の捉え方であり理解の仕方である。琉球諸語のような消滅危機言語を維持・復興するためには、当該言語の記録・保存が重要である。なぜならばそれらの記録は言語の復興を目指す人たちにとって重要な資料や教材となるからである。沖縄語に関して音韻、文法、語彙については多くの研究があるが、メタファーやメトニミーといった比喩の研究はそれらと比較してあまり行われていない。上で述べたようにメタファーやメトニミーは言語表現であると同時に、言語使用者のもの、捉え方、理解の仕方であり、一種の世界観である。したがって、言語の維持・復興だけでなく文化や世界観の維持・復興という観点からも、消滅危機言語のメタファーやメトニミーの記録・保存は重要であり、その分野のさらなる研究が必要である。

今回の沖縄語の「怒り」の比喩表現の研究は、辞典と文献のみを用いた予備調査的なものである。今後は、沖縄語話者に聞き取り調査を行い、さらに多くの怒りの表現を収集したうえで、再度メタファーおよびメトニミーの分析を行う予定である。

## 参考文献

- 外間守善(2000)『沖縄の言葉と歴史』東京：中央公論新社。
- 国立国語研究所(編)(2001)『国立国語研究所資料集5 沖縄語辞典』東京：財務省印刷局。
- Kövecses, Zoltán (1986) *Metaphors of anger, pride, and love: A lexical approach to the structure of concepts*. Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.
- Lakoff, George (1993). The contemporary theory of metaphor. In Andrew Ortony (Ed.), *Metaphor and thought* (2nd ed.) (pp.202-251). Cambridge: Cambridge University Press.
- Langacker, Ronald W. (1993). Reference-point constructions. *Cognitive Linguistics* 4: 1-38.
- 町田星羅・松井真人(2019)「なぜ危機言語を維持すべきなのか—沖縄語の親族名称「ウウナイ」の意味と用法をめぐって—」『山形県立米沢女子短期大学紀要』55: 25-37.
- Matsuki, Keiko (1995) Metaphors of anger in Japanese. In: John R. Taylor and Robert E. MacLaury (eds.) *Language and the cognitive construal of the world*, 137-151. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- 中本正智(1983)『琉球語彙史の研究』東京：三一書房。
- 中村明(2022)『感情表現新辞典』東京：東京堂出版。
- 佐藤信夫(1992)『レトリック感覚』東京：講談社。
- 瀬戸賢一(1997)『認識のレトリック』東京：海鳴社。